



③

測量基準を変えて修正



「931m」と記されている標柱＝六甲山最高峰

「最初の測量は大阪湾を基準に行われましたが、本来の測量基準は東京湾の平均海面なので、後に測り直して修正されました」

確かに測量の基準地点がずれてしまうと、標高など



標高の数字が異なる2枚の地図。左は明治19年、右は同36年に測量された

「実は、時代によってけっこう変わったんですよ。高くなったり低くなったり、いろんな数字が混在していたり」。六甲歴史散歩会代表の前田康男さんはそう話す。

「近代的方法で初めて測量されたのは明治19(1886)年なんです。そのときは927・8mだったんです」

「207・8m(明治19年) ↓932・1m(明治36年)の流ればよく分かった。ただ、それでもまだ現在の931・25mと1mほどの誤差があるのでは。細かい質問で恐縮しながら前田さんに聞いた。

「地質学のことにはよく分かりません。ただ、明治時代に置かれた三角点の目印となる標石が、昭和21年の昭和南海地震でなくなつて設置し直したようなんです。その影響も大きいと思います」

標高

時代によって変化

山を隆起させるほどの震災の威力には驚くが、前田さんの言葉にも驚いた。

「近代的方法で初めて測量されたのは明治19(1886)年なんです。そのときは927・8mだったんです」

「207・8m(明治19年) ↓932・1m(明治36年)の流ればよく分かった。ただ、それでもまだ現在の931・25mと1mほどの誤差があるのでは。細かい質問で恐縮しながら前田さんに聞いた。

左の記事を読んで下の問いに答えましょう。
1 空欄Aには「東京」「大阪」のどちらかが入ります。それぞれ書きましょう。

A	B
---	---

2 六甲山は4回高さが変わっています。年代が古い順に高さを書き、高さが変わった理由をそれぞれ書きましょう。

① m



② m



③ m



④ m

①→②理由

②→③理由

③→④理由

NIEワークシートのこたえ（2023年11月13日公開）

◆ワークシート「六甲山の高さは変わる(理科)」
2023.10.26付 朝刊 神戸版 19面 解答

1 A 東京 B 大坂

2 ① 927.8m

①→②理由 最初の測量は大阪湾を基準にしたが、本来の測量基準は東京湾なので測りなおした

② 932.1m

②→③理由 明治時代に置かれた三角点の標石が昭和21年(1946年)の昭和南海地震でなくなって、設置しなおした。

③ 931.13m

③→④理由 阪神・淡路大震災で隆起した。

④ 931.25m (同意可)